

北九州市の地域福祉 2011～2020 中間見直し強化プラン（案）  
に対する市民意見提出手続の実施結果等について

- 1 募集期間 平成 29 年 4 月 10 日から平成 29 年 5 月 10 日まで
- 2 提出者 18 人
- 3 提出意見数 42 件
- 4 提出方法
  - 持参 9 人
  - 電子メール 5 人
  - F A X 4 人
- 5 提出意見の内訳
  - (1) 計画全般 に関するご意見 5 件
  - (2) 第 1 章「強化プラン策定にあたって」に関するご意見 1 件
  - (3) 第 2 章「地域福祉に関する環境の変化」に関するご意見 3 件
  - (4) 第 3 章「基本目標におけるさまざまな課題」に関するご意見 4 件
  - (5) 第 4 章「充実・強化すべき 13 の方向性」に関するご意見 12 件
  - (6) 第 5 章「主体ごとの役割」に関するご意見 8 件
  - (7) その他 のご意見 9 件
- 6 プラン（案）への反映結果
  - (1) 計画に記載済み、又は計画期間中に実施・検討予定 18 件
  - (2) 追加・修正あり 9 件
  - (3) 追加・修正なし 2 件
  - (4) その他 13 件
- 7 提出された意見と市の考え方（案） 2～8 ページ
- 8 提出された意見を踏まえたプラン（案）の修正内容 9～11 ページ

# 北九州市の地域福祉2011～2020中間見直し強化プラン（案）に対する意見と市の考え方（案）

## 【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

## 【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>計画全般 に関するもの（5件）</b>				
1	網羅的に国の言うことを全部載せてはいるが、6W3H（なぜ・誰が・誰に・何を・いつ・どこで・どのように・どの程度・どのくらいの予算で）が未整理のまま、市民を巻き込んで効果を上げる実行可能性が見えてこない。 市民参加活動が大前提になっている計画ならば、別途に「市民力によるこれからの地域活動ガイド」のようなものを作るべき。	本プランを基に今年度策定する予定の高齢者支援計画、障害者支援計画、健康づくりプランの中で、市民を巻き込んで効果を上げるための施策について具体的に整理できるよう努めるとともに、住民主体の地域福祉活動が効果的に行われるための知見や参考事例の収集・整理・啓発等に努めます。	2	①
2	高齢者の増加への対応策として「地域包括ケアシステム」の構築が急務であるが、その視点が少ないように思える。	今年度、本プランを基に策定する予定の高齢者支援計画において、「地域包括ケアシステム」構築に向けた基本的な考え方や具体的な施策について整理できるよう努めます。	2	①
3	地域福祉活動の課題に対して分かりやすくプランが提案されている。各団体と協働して、行政機関とともに住民の幸せを願い、民生委員の活動を継続していきたい。	日頃より地域福祉の推進にご理解・協力いただき、ありがとうございます。引き続き、ご協力をよろしく申し上げます。	1	④
4	人助けをしたいという意志、気持ちを活かす仕組みは、多様であることが大事で、行政施策としてやろうとすることはイメージしにくい。	地域福祉の取り組みは、多様な考え方や生き方を認め合うことが前提であるため、人助けをしたいという気持ちのある方が充実した活動を行えるよう、それぞれの思いや状況に応じて、多様な主体が支援していくことが重要と考えています。	2	④
5	地域福祉活動の進展により自助・共助・公助の考え方は、かなり地域住民の間に浸透してきたように思うが、地域の「ふれあい昼食会」に毎回参加していた高齢者が、デイサービスに通い始めると来なくなり地域と疎遠になっていくなど、共助から公助に移った段階、あるいは両者を併用する段階で、地域のネットワークから切り離されてしまう傾向が見られる。 在宅介護、在宅医療を促進する「地域包括ケアシステム」を軌道に乗せるためには、共助（地域の福祉担当者・民生委員）と公助（特に担当ケアマネジャー）のネットワークを緊密にしていく必要があり、それを仕組みとして定着させる必要がある。	ご意見のとおり、地域包括ケアシステムの推進に向けて、地域と介護保険関係者等との連携は重要と考えます。 共助と公助の連携の仕組みについては、今年度策定予定の高齢者支援計画の中で検討するとともに、様々な場面を通じて連携を図っていきます。	2	①
<b>第1章 強化プラン策定にあたってに関するもの（1件）</b>				
6	2ページの現計画の基本目標に「高校・大学等と連携・協働した地域福祉課題解決への取り組み」を基本目標4として加え、以下の説明文を追加して欲しい。 福祉に関連する教育や地域貢献を行う高校・大学・研究機関は、「時代とともに進化する地域福祉の新たな取り組み」を実践・研究しています。多様な各専門分野の高校や大学の専門性を連携・協働させることで、「学生が自ら課題解決する力を養い自主的に動くシステム」や「新たな時代に対応した福祉の提供ビジョンの構築」を目指します。	保健福祉関連の教育・研究機関と連携・協働した地域福祉課題解決の取り組みについては、重要な視点であるため、本プランに反映します。 なお、この取り組みについては、基本目標を達成するための手段と考えられるため、第4章「充実・強化すべき13の方向性」、第5章「主体ごとの役割」において、記載を追加・修正します。（21・25ページ）	3	②

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
<b>第2章 地域福祉を取り巻く環境の変化に関するもの（3件）</b>				
7	この強化プランとは関係ないが、高齢者社会を代表する言葉として、団塊の世代が後期高齢者になる時期を指して「2025年問題」と言っているが、日本の経済を支えてきた人々を高齢になれば厄介者のように問題というのは、本当に失礼な表現であり、改めて欲しい。	団塊の世代の方が高齢になること自体は問題ではありませんが、医療・介護が必要な方が急激に増加した場合に、その方々を支える人手や財源が不足し、適切な医療や介護が受けられなくなることは、市としても非常に大きな課題であると認識しています。	5	④
8	「介護予防」という言葉は、介護予算の削減が目的で介護されることを罪悪視するイメージを感じる。介護の必要がない健康な状態が本人にとっても幸せであることは言うまでもないが、助けを必要とする人が助けを受けることが当たり前なことと見なせる温かさがあって欲しい。	「介護予防」は、いわゆる従来から行っている「健康づくり」のことですが、「介護予防」という言葉やその意味・意義ならびにイメージについて、市民への理解がさらに深まるよう普及・啓発に努めます。	3	③
9	8ページに項目14として「福祉に関連する高校・大学などとの連携・協働の促進」を追加して欲しい。	保健福祉関連の教育・研究機関との連携・協働については、重要な視点であるため本プランに反映します。 なお、第2章は、「地域福祉を取り巻く環境の変化」を整理した章ですので、第4章の「充実・強化すべき方向性」や第5章「主体ごとの役割」において、記載を追加・修正します。（21・25ページ）	3	②
<b>第3章 基本目標におけるさまざまな課題に関するもの（4件）</b>				
10	11ページの「障害のある人が他の障害のある人を支援するなど要支援者同士の間でも支援しあう関係を築くことができる」について、障害者を要支援者と限定的に捉えることを払拭できる表現に変え、かつ共感できる立場であるという意味、意義を加えることはできないか。	ご意見を踏まえ、表現を修正します。（11ページ）	3	②
11	14ページの「適切なサービス利用の実現のための仕組みの構築」の課題として、「福祉に関連する高校・大学などと連携・協働し、将来を担う人材の育成、地域福祉課題解決への取り組みが重要である」を追加して欲しい。	保健福祉関連の教育・研究機関との連携・協働については、重要な視点であるため、ご意見を踏まえ、「適切なサービス利用の実現のための仕組みの構築」の課題を追加します。（14ページ）	3	②
12	15ページの「新たな生活課題への対応」の課題として、「福祉に関連する高校・大学・研究機関・企業などと連携・協働することで、新たなベンチャービジネスが期待される」を追加して欲しい。	保健福祉関連の教育・研究機関との連携・協働については、重要な視点であるため、ご意見を踏まえ、「新たな生活課題への対応」の課題を追加します。（15ページ）	3	②

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
13	15ページの「必要なサービスを適切に提供するための仕組みづくり」の課題14として、「福祉に関連する高校・大学・研究機関・企業などと連携・協働することが重要だが、どこにどのような人がいて、何を専門にしているかが不明。各専門分野の教員を含めた『提供可能なこと』や『提供して欲しいこと』などが検索できるネットワークシステムが求められる」を追加して欲しい。	保健福祉関連の教育・研究機関との連携・協働については、重要な視点であるため、ご意見を踏まえ、「必要なサービスを適切に提供するための仕組みづくり」の課題12の記載を追加修正します。(15ページ)	3	②
<b>第4章 充実・強化すべき13の方向性に関するもの(12件)</b>				
14	優先すべき具体的な取り組みを1つでも示すことはできないか。	充実・強化すべき13の方向性は、どれも重要であり、同時平行で取り組みを進めていくべきものと考えます。 なお、地域福祉の取り組みは「住民主体」が前提であるため、方向性1「意識の醸成」や方向性3「地域課題・ビジョン・解決策を共有・検討する仕組みの構築」などから速やかに着手します。	3	③
15	少子高齢社会のなかで地域福祉意識を醸成していくことは大切なことであるが、地域の力だけでは住民の意識を変えていくことは困難である。 地域では、校区社協等が中心になり小学生に福祉体験や地域体験をしてもらう「次世代地域福祉活動者育成事業(ウェルクラブ活動)」に取り組んでいるが、実施校区は限定的であり、全市的な広がりがないのが現状である。 将来の地域福祉活動を担う子どもたちに対する働きかけは、今後の地域福祉推進の上で重要な課題だと思われるので、行政や教育委員会、学校等が中心になり、市内の全ての子どもたちが地域福祉活動や地域行事に参加し、地域福祉に対する関心を高めていくようなプログラムを学校教育の一環に取り入れて欲しい。	本市では、生命を尊重し、他人を思いやる心や奉仕する精神をはぐくみ、高齢者や障害のある人をはじめ、誰もが安心して生活できる福祉社会の担い手として、共に生きようとする実践的な態度を育成する教育を推進しています。 例として、総合的な学習の時間や学校行事等で高齢者や障害のある人との交流やボランティア体験活動を行ったり、関係機関等と連携し、社会体験的な学習を行うなど、地域や学校の実態を踏まえた活動を学校ごとに取組んでいます。 本プランにおいても、方向性1「意識の醸成」として「地域課題解決型の福祉教育の推進」を充実強化することとしており、学校教育全体を通じて児童生徒の社会福祉への理解と関心を高めていきます。	2	①
16	大学を拠点とした協働事業であるコラボキャンパスネットワークは、子どもから高齢者まで多世代、異質な人たちが関わり活動できるため、学生が自分が親になるということを体感しやすい居場所となっている。子育て中の親も、仕事仲間とは違う仲間の形成により社会性の幅が広がり、自信を持って子どもに関わり一緒に成長する楽しみに気づくことができる。 子どもを産みたいと思える社会の実現のためには、子どもを皆で見守り育てようという思いが自然にあふれる活動が継続できるよう願う。	子どもや子育て中の親が他の世代と交流することは、お互いの理解が深まることに加え、地域社会全体で子どもと子育て家庭を支える気運の高まりにもつながります。 本プランにおいても、方向性2「交流の促進」として「多世代交流の場づくり」を充実強化することとしており、引き続き、このような活動を応援していきます。	2	①

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
17	<p>折尾の学生数は、12,000人で北九州市内の1/4を占め、福祉系の学生も多いため、若者主体の多世代交流のモデル地区としてふさわしい。地域の高校・大学・研究機関が連携した「実践研究型・多世代交流」の拠点として、交通の利便性の高い「オリオンプラザ」で実証実験をさせて欲しい。</p> <p>具体的には、折尾愛真高校、折尾高校、九州女子大学、九州女子短期大学などの栄養学科を中心とした「まちの食堂」や、産業医科大学を中心とした「まちの保健室」、九州共立大学のスポーツ学科を中心とした「まちのジム」などが考えられる。</p>	<p>今回、ご意見をいただいた「オリオンプラザ」については、折尾地区総合整備事業の進捗に伴い解体（平成31年度予定）されることとなっています。</p> <p>なお、本プランでは、方向性2「交流の促進」として「多世代交流の場づくり」を充実強化することとしています。また、小・中・高等学校・大学の役割として、「学生等が地域の福祉課題について学び、自分たちができることを話し合い、地域住民や団体と協働し、実践する機会の充実を図る」としており、市としても学校と地域のマッチングなど支援していきたいと考えています。</p>	4	④
18	<p>新しく団体を立ち上げようとする方や活動を始めたいと思うグループを対象とした研修や講座の機会があれば、やりがいや活動の効果を伝えて、市内全域に担い手が一人でも増えるよう、協力できると思う。</p>	<p>ボランティア・互助活動の担い手を増やすことについては、重要な課題として認識しており、本プランにおいても、方向性4「ボランティア・互助活動の促進」の中で、「参加する人が楽しさや充実感、健康づくり、自分の成長などメリットを感じられる仕組み」を検討することとしていますので、ご協力をお願いします。</p>	1	①
19	<p>地域福祉もまちづくり同様「①若者、②よそ者、③バカ者」が必要であり、福祉に関連する高校・大学に通う学生が、将来を担うリーダーや、地域課題を解決するような先駆的IT技術やシステムなどを考え出す可能性が高く、13ページの「課題7」にあるように、大学生や高校生などを積極的に受け入れるための仕組みが必要である。</p>	<p>地域福祉課題の解決や人材育成のために大学生や高校生などを地域に積極的に受け入れることは重要であるため、ご意見を踏まえ、方向性4「ボランティア・互助活動の促進」の「④学生の参加促進」の記載を追加・修正します。（18ページ）</p>	2	②
20	<p>コミュニティビジネスをイメージしやすい例示を加えてはどうか。</p>	<p>本プランの方向性5「NPO・企業等の社会貢献活動、コミュニティビジネスの活性化」の参考事例として、高齢者の食生活を支援する「団らん処 和菜屋」の取り組みについて掲載しています。</p>	3	①
21	<p>委員会や推進委員会を役所主導で立ち上げ、組織づくりをするのは理解できるが、地域にその割り当てが半強制的に来ると地域には、負担になっていることが多い。どこの会議に行っても同じ顔ぶればかりであり、同じ人が重複して役割を担っているのが現状である。</p>	<p>地域の担い手不足や負担の重複については、重要な課題と認識しており、本プランにおいても、方向性6「多様な地域人材の育成と役割分担」について充実強化することとしています。</p> <p>地域活動の負担が偏らないように適切な役割分担を行い、楽しみながら活動できる仕組みづくりについて、研究・支援していきます。</p>	2	①
22	<p>老人クラブが消滅している自治会もあるが、超高齢社会には再強化が必要である。</p> <p>老人クラブを中心として、インターバル速歩やスロージョギング等を取り入れた運動療法を展開し、介護医療費の半減を目指せないか。</p>	<p>本プランでは、方向性11「健康づくりや認知症・介護予防の支援」について充実強化することとしています。いただいたご意見を踏まえ、老人クラブの強化や様々なプログラムの実施について、研究・支援していきます。</p>	2	①

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
23	運動によりMCI（軽度認知障害）を30%程度軽減できる。北九州市発祥のスポーツであり全世代に愛されているふうせんバレーボールと最近の分子生物学、画像工学等を組み合わせた認知症撃退法を開発できないか。	認知症の予防については様々な研究が行われており、生活習慣病の予防や継続的な運動については特に効果が期待されているところです。 運動と認知課題を組み合わせたコグニサイズなど、様々なトレーニングが考案されており、本市では一人ひとりが気軽に自宅等で取り組める習慣づくりについて、普及啓発に取り組んでいます。 運動がもたらす効果については、今後も広く市民に伝えていきたいと考えています。	2	①
24	介護ロボットは、力仕事を補完するイメージが先行しているが、コミュニケーションを促進するためのモデル事業も必要ではないか。特に、70歳以降のインターネットに親しみのない世代については、コミュニケーションロボットが人と人との間を取り持つ可能性が大きい。	本プランでは、方向性12「介護・福祉サービスの生産性向上」のため、ロボット等の活用を推進することとしています。 本市が実施している「介護ロボット等を活用した先進的介護の実証実装」では、介護現場の抱える課題を見える化し、その課題解決に向けた介護ロボット等を導入実証することとしており、この中には移乗・移動支援だけでなく、記録や見守りセンサー、コミュニケーションロボット等についても含まれています。	2	①
25	16ページの充実・強化すべき方向性として「多様な福祉専門の高校や大学などとの連携・協働の促進」を追加して欲しい。	ご意見を踏まえ、方向性12「介護・福祉サービスの生産性向上」と方向性13「多様な福祉専門人材の育成」の記載を追加修正します。（21ページ）	3	②
<b>第5章 主体ごとの役割に関するもの（8件）</b>				
26	（私たちは、NPOとして）介護保険や障害福祉の制度では対応できない様々なニーズに「助け合い」としてサービスを提供しているが、活動者の高齢化と新たな参加者の確保ができない状況を改善できない。 生活支援事業の訪問型サービスを行う事業所の数が少ない中、お金ではなく支え合い、助け合いに関心を持ち参加してくれる人を個々の団体で効果的に募集していくことには、限界がある。	本プランでは、NPO・ボランティア団体の役割として、自らの活動への賛同者を増やし、人や活動資金を集めるために有効な広報・啓発を行うこととしています。 また、市（行政）の役割として、NPOと活動希望者などを仲介する仕組みを検討することとしています。	2	①
27	介護ヘルパー事業所をしているNPOであるが、ヘルパーの半数が70歳前後で、募集しても人材が集まらない。 ボランティアの人材確保は難しいが、事業所としては、ヘルパーのスキルアップ、専門性を高めていくことを目標としている。	本プランでは、NPO・ボランティア団体の役割として、自らの活動への賛同者を増やし、人や活動資金を集めるために有効な広報・啓発を行うこととしています。 また、本市では、福祉人材バンクを開設し、求人事業所と求職者を結びつける支援を行うとともに、介護サービスの適正化を図るため、様々な研修を開催しており、従事者のスキルアップを支援しています。	2	①
28	NPO・ボランティア団体・企業・事業所は、地域に存在する「専門性のある組織」として、困っている人の相談・支援窓口として各々が機能することを目指す。重要なのは、「サービスを利用する人」や「企業の顧客となる人」だけでなく、困っている方や声掛け・見守りなどが必要な方に地域住民と協力して定期的な関わりを持てるかどうかである。	本市では、NPO・ボランティア団体や地域に密着した企業活動を行う宅配業者、電気・ガス会社、金融機関等に「いのちをつなぐネットワーク推進会議」に参加いただき、声かけや見守り活動にご協力いただいています。今後も未参加の企業等に働きかけ、ネットワークを拡大していきたいと考えています。	2	①

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
29	25ページの小・中・高等学校・大学の役割として「(4)福祉に関連する高校・大学などと連携・協働する」という項目と「多様な各専門分野の高校や大学の専門性を連携・協働させることで、『学生が自ら課題解決する力を養い自主的に動くシステム』や『新たな時代に対応した福祉の提供ビジョンの構築』を目指す」という説明を加えて欲しい。	ご意見を踏まえ、小・中・高等学校・大学の役割として、特に福祉関連の高校・大学に求められる役割を追加します。(25ページ)	3	②
30	社会福祉法人・福祉施設等による認知症カフェなどの開催は、地域に広く開かれた形で運営されることが理想。参加者を確保することではなく、地域で介護サービスを知らない方たちに、どれだけ知られて活用されていくか、などを工夫していくべきと考える。	本プランでは、社会福祉法人・福祉施設等の役割を「自らの専門分野について住民への啓発を行う」ことや、「施設が保有する敷地・地域交流スペース・設備等の貸出しや職員の参加などにより、地域の支え合い活動を支援する」こととしており、市としても、地域に開かれた運営について働きかけていきます。	2	①
31	校区社協の連絡調整会議に専門職や事業者の参加を促し、地域の課題を共有して一緒に解決にあたることは、「地域ケア会議」の開催企画にも繋がる。市・区社協には地区の専門職や事業者を受け入れることにご理解いただくこと、また、事業者には「ビジネスに繋げる」目的ではなく、地域の課題を共に解決するための場への参加意識が大切と考える。(双方の共感がないと続かない)	校(地)区社協の連絡調整会議は、地域福祉推進のために重要な役割を担っており、本プランでは、市・区社会福祉協議会の役割として、「校(地)区社協の連絡調整会議に専門職や事業者などの参加を促し、地域課題を解決するための地域資源の共有や創出を促進する」としています。 また、市(行政)の役割として、企業経営者などに対して地域福祉の意義や求められる役割・行動等について広報・啓発を行うこととしています。	2	①
32	現状の問題点や課題の細かい整理・分析は素晴らしいと思うが、既存の施設や制度が市民に周知されず、せっかくの施設・制度が活かされていない。広報の仕方がうまくない。	本プランでは、市(行政)の役割として、地域福祉の意義、それぞれに求められる役割・行動などについて「戦略的な広報・啓発を行う」としてありますが、既存の施設・制度についても周知・広報のあり方を工夫し、幅広く活用されるよう努めます。	2	①
33	北九州市内には、多くのNPO団体や任意団体が熱心に活動しているが、市の政策とマッチした活動を適切に評価し、運営に対して助成する仕組みを整えるべきである。	現在、NPO団体等が専門性を発揮して行う先進的な活動に対する助成や、北九州市地域福祉振興基金の運用収益を活用した在宅福祉サービス活動への援助、ボランティア活動の促進、高齢者の健康及び生きがいづくり等の活動を行うさまざまなボランティア団体に助成を行っています。 本プランにおいても、市(行政)の役割として、NPO等の地域福祉活動やコミュニティビジネスの支援を挙げており、今後もこうした支援を継続していきます。	2	①
その他(9件)				
34	民生委員の間では「何かあったら地域包括支援センターに相談しよう」を合言葉にしており、フットワーク軽く相談に乗ってもらっている。	地域包括支援センターは、日頃から民生委員と連携しながら地域における高齢者の実態を把握し、早期に必要なサービスにつなぐ相談・支援に取り組んでいます。今後も、地域包括ケアシステムの構築に向けて、民生委員との連携を深めたいと考えています。	5	④

【意見の内容】

- 1 計画の趣旨や内容に対する賛意や共感を示す意見
- 2 計画の今後の進め方等に対する考えを述べた意見
- 3 計画の内容や表現に対して追加や修正を求める意見
- 4 地域福祉推進のための具体的な提案・意見
- 5 その他の意見

【意見の反映結果】

- ① 計画に掲載済、または計画期間中に実施予定
- ② 追加・修正あり
- ③ 追加・修正なし
- ④ その他

No.	意見の概要	市の考え方	内容	反映結果
35	北九州市は、認知症に対する政策に積極的に取り組まれているようだが、オレンジリングの普及など、数は達成しても、その後リングを持った人がどのように活動しているか見えてこない。数よりも質で、現実に市民に還元していくところまで見届けることが必要ではないか。	オレンジリングは認知症を正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守る応援者である「認知症サポーター」を示す証です。認知症の人が生活する様々な場面で認知症サポーターが関わることで、安心して暮らせるまちづくりに繋がると考えています。 ご意見にありましたようにサポーターの状況を把握し、活動の促進を行うことは重要と考えますが、まずはできるだけ多くの市民の方々に認知症サポーターとなっただけで認知症についての理解を深めていくことに重点を置いていきたいと考えています。	4	④
36	要介護状態や病気になった時に、どこでどのように過ごしたいかを日頃から考えていくことが重要であるが、フリーの看護師が地域に点在することで、その意志決定を支援できるのではないか。	ご意見のとおり、身近に専門職のいる相談の場があることは、有意義だと考えます。今後、そのような相談の場と地域包括支援センターや区の相談・支援窓口との連携を図っていききたいと考えています。	4	④
37	ボランティア中や行き帰りに事故にあう事を考えて、一步を踏み出せない人や紹介を躊躇する人がいるため、ボランティア保険の補償内容についてQ&A形式で明記してほしい。	北九州市社会福祉協議会が窓口となっている、全国社会福祉協議会が運営しているボランティア保険について、下記のアドレスにQ&Aが掲載されていますので、ご紹介します。 ( <a href="https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/info/info_ques.html">https://www.fukushihoken.co.jp/fukushi/front/info/info_ques.html</a> )	4	④
38	地域包括支援センターのあり方もその例であるが、役所の名称や制度が短期間に変わりすぎる。定着する前に次々に変わるのはいかがなものか。また、カタカナ文字、必要のない横文字が多い。日本語で分かりやすく説明した方がよい。	ご意見を踏まえ、頻繁な制度や名称の変更を極力避けるとともに、日本語での表現に努めます。	5	④
39	北九州市には、たくさんの育児情報、イベントが知られているが、参加者がお客様になってしまうイベントが多い。意見を出しあったり、運営に参加できる楽しさを感じられるイベントなどが増えることを望む。	ご意見を踏まえ、よりよいイベントづくりができるよう努めます。	5	④
40	障害者はすべてのサービスが受けられるようになったらよいと思う。	障害福祉サービスについては、必要な方に必要なサービスをご利用いただけるよう、利用する方のニーズを踏まえた適切なサービスの提供に、引き続き努めていきます。	4	④
41	北九州市立大学名誉教授の山崎克明氏の「北九州市発21世紀の地域(コミュニティ)づくり—参加型福祉社会の創造」が参考になると思う。	今後の地域福祉施策の参考にします。	2	④
42	医療・福祉・保健の実務者が参加する若松区の地域ケア研究会の活動が参考になる。	今後の地域福祉施策の参考にします。	2	④



北九州市の地域福祉 2011～2012 中間見直し強化プラン（案）  
に対する市民意見を踏まえた修正内容

**修正 1**

【意見概要】（意見No. 1 0）

「障害のある人が他の障害のある人を支援するなど要支援者同士の間でも支援しあう関係を築くことができる」について、障害者を要支援者と限定的に捉えることを払拭できる表現に変え、かつ共感できる立場であるという意味、意義を加えることはできないか。

【修正箇所】 1 1 ページ（修正）

第 3 章 基本目標におけるさまざまな課題

1 地域福祉意識の醸成と支え合いの関係づくり

(2) お互いに支え合う関係づくりの促進

- 人はいつも助けられる側にいるだけだと自尊感情が薄れていくため、助ける側に回ることが大切である。例えば、炊き出しで支援されていた生活困窮者が自立して炊き出しスタッフになることや、障害のある人が他の障害のある人を支援するなど、要支援者同士の間でも共感できる立場を活かして支援しあう関係を築くことができる。

**修正 2**

【意見概要】（意見No. 1 1）

「適切なサービス利用の実現のための仕組みの構築」の課題として、「福祉に関連する高校・大学などと連携・協働し、将来を担う人材の育成、地域福祉課題解決への取り組みが重要である」を追加して欲しい。

【修正箇所】 1 4 ページ（下線の文章を追加）

第 3 章 基本目標におけるさまざまな課題

3 必要なサービスを適切に提供するための仕組みづくり

(1) 適切なサービス利用の実現のための仕組みの構築

- 将来を担う保健福祉人材の育成、地域福祉課題の解決のために、保健福祉に関連する教育・研究機関と地域・社会福祉法人・行政などの連携・協働が求められている。

**修正 3**

【意見概要】（意見No. 1 2）

「新たな生活課題への対応」の課題として、「福祉に関連する高校・大学・研究機関・企業などと連携・協働することで、新たなベンチャービジネスが期待される」を追加して欲しい。

【修正箇所】 1 5 ページ（下線の文章を追加）

第 3 章 基本目標におけるさまざまな課題

3 必要なサービスを適切に提供するための仕組みづくり

(2) 新たな生活課題への対応

- 新たな生活支援サービスを生み出すために、保健福祉に関連する教育・研究機関と企業、NPO、社会福祉法人、行政などの連携・協働が求められている。

#### 修正4

##### 【意見概要】（意見No.13）

「必要なサービスを適切に提供するための仕組みづくり」の課題14として、「福祉に関連する高校・大学・研究機関・企業などと連携・協働することが重要だが、どこにどのような人がいて、何を専門にしているかが不明。各専門分野の教員を含めた『提供可能なこと』や『提供して欲しいこと』などが検索できるネットワークシステムが求められる」を追加して欲しい。

##### 【修正箇所】15ページ（修正）

#### 第3章 基本目標におけるさまざまな課題

### 3 必要なサービスを適切に提供するための仕組みづくり

#### (3) 課題のまとめ

##### 【課題12】

急速な少子高齢化の進展により、労働力人口が減少していく中、質・量ともに多様化する福祉ニーズに対応するための、保健福祉に関連する教育・研究機関と地域・企業・NPO・社会福祉法人・行政などが連携・協働したサービス提供体制の構築や福祉人材の確保が求められている。

#### 修正5

##### 【意見概要】（意見No.19）

地域福祉もまちづくり同様「①若者、②よそ者、③バカ者」が必要であり、福祉に関連する高校・大学に通う学生が、将来を担うリーダーや、地域課題を解決するような先駆的IT技術やシステムなどを考え出す可能性が高く、13ページの「課題7」にあるように、大学生や高校生などを積極的に受け入れるための仕組みが必要である。

##### 【修正箇所】18ページ（修正）

#### 第4章 充実・強化すべき13の方向性

### 1 一人ひとりが抱える課題を「みんなで受け止める地域づくり」

#### 方向性4：ボランティア・互助活動の促進

##### ⑤ 学生等の参加促進

地域と高校・大学・専門学校等が協働し、学習の一環として地域の保健福祉活動に学生等が参加する仕組みを充実させるため、地域と大学学校が情報共有できる場をつくる。

#### 修正6

##### 【意見概要】（意見No.6）

現計画の基本目標に「高校・大学等と連携・協働した地域福祉課題解決への取り組み」を追加して欲しい。

##### 【意見概要】（意見No.9）

第2章「地域福祉を取り巻く環境の変化」に「福祉に関連する高校・大学などとの連携・協働の促進」を追加して欲しい。

##### 【意見概要】（意見No.25）

充実・強化すべき方向性として「多様な福祉専門の高校や大学などとの連携・協働の促進」を追加して欲しい。

【修正箇所】 21 ページ（下線部分を追加、2カ所）

#### 第4章 充実・強化すべき13の方向性

##### 2 一人ひとりが抱える課題を「地域の多様な専門性を活かして解決する仕組みづくり」

##### 方向性12：介護・福祉サービスの生産性向上

保健福祉関連の教育・研究機関、企業、社会福祉法人、NPO、行政などが連携・協働し、ロボット・ICT等の活用、サービスの総合化、施設が多機能化などにより、介護・福祉サービスの生産性を高め、利用者と職員双方の満足度を向上させる。

##### 方向性13：多様な福祉専門人材の育成

相談・支援窓口の専門性向上やネットワーク構築のため、保健福祉関連の教育・研究機関と行政・社会福祉法人などが連携・協働し、専門的な知識の習得に加え、実際に地域福祉活動に参画する経験を通じて、コーディネータ力を有する人材を育成する。

### 修正7

#### 【意見概要】（意見No.6）

現計画の基本目標に「高校・大学等と連携・協働した地域福祉課題解決への取り組み」を追加して欲しい。

#### 【意見概要】（意見No.9）

第2章「地域福祉を取り巻く環境の変化」に「福祉に関連する高校・大学などとの連携・協働の促進」を追加して欲しい。

#### 【意見概要】（意見No.29）

小・中・高等学校・大学の役割として「(4)福祉に関連する高校・大学などと連携・協働する」という項目と「多様な各専門分野の高校や大学の専門性を連携・協働させることで、『学生が自ら課題解決する力を養い自主的に動くシステム』や『新たな時代に対応した福祉の提供ビジョンの構築』を目指す」という説明を加えて欲しい。

【修正箇所】 25 ページ（下線の文章を追加）

#### 第5章 主体ごとの役割

##### 6 小・中・高等学校・大学

##### (1) 参加意欲や課題解決能力を高める

・特に、保健福祉に関連する高校・大学は、その専門性を活かし、地域、NPO、企業、社会福祉法人、行政等と連携・協働した地域福祉課題の解決や人材育成を図る。